



# EMBASSY OF THE REPUBLIC OF THE UNION OF MYANMAR, TOKYO



NEWSLETTER VOLUME NO. 6

DATED: July 2024

No.	表 題
1.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン 国軍総司令官国家統治評議会会議 (3/2024) に出席しスピーチを表明
2.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 バゴー川橋 (第3タンリン橋) の開通式に出席
3.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官ティラワ複合農畜産地帯の実施状況を視察
4.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に駐ミャンマー アラブ首長国連邦大使が信任状を提出
5.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に駐ミャンマースリランカ大使が信任状を提出
6.	ミャンマーにおける 2010 年から 2020 年間の森林破壊率 わずか 0.9 パーセント
7.	国家統治評議会副議長兼副首相ソー・ウィン中将 工業および工業地帯開発中央委員会 (1/2024) 会議に出席
8.	国家統治評議会議長兼首相代理：国家統治評議会の事務局長アウン・リン・ドエ中将 ミャンマー国立疾病管理・医療研修センターの開校式に出席
9.	副首相兼外務大臣 駐ミャンマー中国大使と面会
10.	副首相兼外務大臣 任命が承諾された駐ミャンマーUAE 大使と面会
11.	副首相兼外務大臣 任命が承諾された駐ミャンマー・スリランカ大使と面会
12.	副首相兼外務大臣 スリランカの副外務大臣率いる代表团と面会
13.	副首相兼外務大臣 駐ミャンマー・バングラデシュ大使と面会
14.	ミャンマー連邦と中華人民共和国間の国交樹立 74 周年を記念し、メコン・瀾滄協力特別基金 (2024 年) により実施されるプロジェクトに係る資金の引き渡しに関する協定書への署名式開催
15.	第 19 回アジア協力対話 (ACD) 外相会合開催中にタン・スエ副首相兼外務大臣がテヘランにてイラン外相と個別会談
16.	ルイン・ウー外務副大臣 スリランカの国会議員らと面会
17.	ASEAN 委員会 (東京) 主催の日本の労働政策会議にソー・ハン大使が出席
18.	ソー・ハン駐日ミャンマー大使 日本アセアンセンターの 平林国彦事務総長と面会
19.	国際大学 (IUJ) で開催された「2024 年度修了式」に駐日ミャンマー大使が出席

20. 外務省事務次官 **Mr. Mongkol VISITSTUMP** 駐ミャンマー タイ大使と面会
21. 外務省事務次官 駐ミャンマー国連人道問題調整事務所 (UNOCHA) の Mr. Sajjad Mohammad Sajid 所長と面会
22. 外務省事務次官 マレーシア大使館の臨時代理と面会
23. 外務省政治局長率いるミャンマー代表団が中華人民共和国を訪問
24. 2024-2025 会計年度の海外貿易額 US ドル 330 億に達すると予測
25. 2024-2025 会計年度の最初の 1 か月間のミャンマーと中国の国境貿易額 US ドル 2 億 8,000 万を獲得
26. **2024-2025** 会計年度 4 月ミャンマー産割れ米を中国へ最も多く輸出
27. 2024-2025 会計年度の 2 か月間に豆類 41 万トン以上を輸出 US ドル 3 億 5700 万を獲得
28. 2024 年 5 月にトウモロコシを予測以上に輸出
29. 海外に 8 隻の貨物船でミャンマーのコメを輸出
30. 2024 年 5 月 ミャンマーから海外に 1 万 9000 トン超のゴムを輸出
31. **2024-2025** 会計年度の 2 か月間で、**480** トン超のミャンマー産ハチミツを輸出
32. **2024-2025** 会計年度の最初の 2 か月間におけるミャンマー-中国の国境貿易 **US ドル 4 億超** 達成
33. **2024 年 5 月に 7 万 1000 トン超** のミャンマーのコメを輸出
34. **2024-2025** 会計年度にミャンマーの空港 7 つを改修
35. **2024-2025** 会計年度の 4 月と 5 月に中国が最も多くミャンマーのコメを購入
36. ミャンマーから 7 か月間に **600** トン超のエビを中国に輸出
37. **2024-2025** 会計年度の最初の 2 か月におけるミャンマーの対外貿易額 **45 億ドル超**
38. カンパティ-国境ゲートからの貿易額 **2024-2025** 会計年度の 6 月の目標を **US ドル 500 万超**
39. **2024-2025** 会計年度の最初の 2 か月間でミャンマーとタイの国境貿易額 **US ドル 5 億近く** に到達
40. 2024-2025 会計年度の最初の 2 か月間で約 4 万 8000 トンの水産物を輸出
41. **2024 年 1 月から 5 月までに** ミャンマーへ空路を通じて外国人観光客 **10 万人以上** が訪問
42. 観光客 1 人当たり 1 本の木を植えるプロジェクト 7 月より開始
43. ミャンマー初のポッパ山国立公園 世界水準のジオパークとしての認定が近づく
44. ヤンゴン地方域で初等教育の生徒 100 万人以上が登校し勉学中
45. 2024-2025 教育年度において 600 万人以上の生徒が初等教育の学校で勉学中

## 1. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン 国軍総司令官 国家統治評議会会議（3/2024）に出席しスピーチを表明

国家統治評議会会議（3/2024）が2024年6月7日午後、ネーピードーの国家統治評議会議長室の会議室で開催され、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン 国軍総司令官が出席しスピーチを行いました。

最初に、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン 国軍総司令官はスピーチの中で、国家統治評議会として国の安定・平和と発展のために5項目のロードマップを策定し実施していること、真の規律に満ちた複数政党制民主主義の道をしっかりと歩むために国家統治評議会として取り組んでいるが、テロリストが政治について暴力的な手段で解決しようとしていること、テロリストたちは複数政党制民主主義の道を歩むのではなく、地域ごとの権力を得ようとしていること、我々は憲法（2008年）に従ってのみ行動しており、すべての民族が平等な権利を有するために取り組んでいること、5項目のロードマップの2つ目である国の経済発展の取り組みにおいて、我が国は農畜産業を基礎とした生産活動を行っており、それらの産業の向上を目指し尽力していること、生産活動が発展することにより国のGDPの成長も望めること、農業部門や工業部門、サービス部門などの向上が必要であること、商業活動を行うとき、通常取引（Normal Trade）であれ国境貿易であれ、私たちとしては海外に輸出できる生産活動を高める必要があること、金融資本が豊富な方々が農業や畜産業に投資することによっても国の農畜産業が発展し生産活動もさらに向上が望めること、農畜産業への投資活動により事業者や国に利益をもたらすことができること、農業の発展のために作付面積を拡大するよりも既存の農地を有効的に活用する必要があること、2024年4月には金の価格や通貨の価値が違和感を持って極端に変動し、強欲なビジネスマンらによって通貨の価値がゆがめられる行為まで行われていること、そこで、必要な調査を行ったところ、金の価格や通貨の価値が本来あるべきところまで徐々に下がってきたこと、過去には経済制裁もあり、我々は銀行システムの崩壊や金融混乱などを防ぐための取り組みを経験したことにより、そのような困難・窮地から国の経済をある程度まで回復させることができたこと、国の経済衰退を目的とした意図的な行為があったこと、あらゆる方面から攻撃が行われているため、通貨を安定させることが極めて重要であると述べました。

さらに、国の永続的な安定と発展のために教育部門が重要であること、国民が全体が自分の学業を疎かにすることは、自分自身を台無しにするだけでなく国を崩壊させることであること、教育部門を破壊する行為ほど不徳義な行為はないこと、したがって国民が教育を受けられるように取り組むことが必要であると述べました。

## 2. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 バゴー川橋（第3タンリン橋）の開通式に出席

ヤンゴン地方域のバゴー川橋（第3タンリン橋）の開通式が2024年6月8日午前に開催され、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席しました。

ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、バゴー川橋（第3タンリン橋）開通式のスピーチにおいて、本日はミャンマー国民の社会経済生活をさらに向上させるために重要であるバゴー川橋（第3タンリン橋）が無事に開通したことを祝福する日であり、ミャンマーの経済首都であるヤンゴン市とヤンゴン地方域のためだけでなく、ミャンマー国民全体にとっても喜ばしい日であること、ヤンゴン地方域のタケタ郡区とタンリン市を結ぶ長さ8638フィートのバゴー川橋（第3タンリン橋）片側2車線ずつ計4車線の新しい橋が国際協力機構（JICA）の補助金を受けて実現されたこと、この橋は、他の橋とデザインが異なり、ヤンゴンのランドマークとなるよう、頑丈で美しい鋼鉄製斜張橋として建設され、この橋を建設するために2017年にODA事業の覚書が締結されたが、2019年の政治情勢により橋の建設やODAが停止し、何回も交渉を重ねた末、再建となったこと、しかし、資金がさらに必要となり国が460億チャット以上を拠出して建設は完了したこと、現在、橋は無事に建設されたこと、新たにバゴー川橋（第3タンリン橋）の片側2車線ずつ計4車線の橋が開通したことにより、第1タンリン橋の交通渋滞が解消されることに加えて、ティラワ経済特区の国内外の企業の成長により、ヤンゴン市を含むヤンゴン南部のタンリン、チャウタン、カヤン、トンダワ地域の地元の社会経済生活が発展すること、将来的には、東西経済回廊も活用され、パアン市-ミャワティ市まで繋がることによってモン州とカレン州の発展に利益をもたらすだけでなく、地域諸国との繋がりもさらに発展が望まれること、橋の完成により、地元の人々の社会経済生活だけでなく、雇用の機会も増加し、観光客も簡単かつ迅速に往来できるようになるであろうと述べました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官並びにメンバーらがバゴ川橋（第3タンリン橋）を視察



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官がバゴ川橋（第3タンリン橋）の記念碑オープンのボタンを押す様子



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官より  
橋の建設に参加した建設技術チームに果物や贈答品を贈呈



バゴー川橋（第3タンリン橋）に多くの車が通過する様子

### 3. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 ティラワ複合農畜産地帯の実施状況を視察

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、2024年6月8日午後、ヤンゴン地方域チャウタン郡区のヤンゴン川とモウウォン川の間にあるミャンマー・エコノミック・コーポレーションのティライワ複合農畜産地帯の事業実施状況を視察しました。

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、ヤンゴン地方域内でこのようなティライワ複合農畜産地帯事業を実施することは、ヤンゴン地方域内の肉類、魚類や季節の作物の確保を目的としていること、地方域内に工場や事務所が多数あり、人口も多いため、需要と供給のバランスをとり、基本的な食料品価格の高騰を抑制するために肉類、魚類や季節の作物の生産を増加させること、農畜産地帯の土地を有効的に活用する必要がある事、本日のバゴー川にかかる橋（第3タンリン橋）の開通に伴い、タンリン地域はこれまで以上に発展が見込まれること、利益を得ることが重要ではなく、ヤンゴン地方域の住民らが肉類、魚類や季節の作物を低価格で購入できるよう実施することが大切であるので、今以上に成功するように取り込むこと、国内消費のために十分な量を生産し、さらに生産量を拡大することで近隣諸国、地域諸国へ冷凍肉や冷凍魚を輸出できるようにすること、したがって、我々は国内の消費者のニーズに応えながら、海外へ高品質な農畜産物を輸出できるよう取り組むこと、農畜産業で成功している国々の農畜産業の方法を継続的に研究し参考とするよう述べました。





国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官  
ティラワ複合農畜産地帯で飼育されている魚類と乳製品の展示を視察



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官  
ティラワ複合農畜産地帯で飼育されている魚類を視察



#### 4. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に 駐ミャンマー アラブ首長国連邦大使が信任状を提出

駐ミャンマーアラブ首長国連邦大使として任命された H.E. Mr. Muraz Abdullah Abdulijaeleel Mohamed Al Faheem が2024年6月11日午前、ネーピードーにある国家統治評議会議長室の外交貴賓室にて、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に信任状を捧呈しました。

その後、両国の外交関係に関する事柄、直行便の拡大に関する事柄、二国間の観光分野、貿易分野とその他の分野の協力促進に関する事柄、国家統治評議会議長として国民が望んでいる複数政党制民主主義の道を堅固とするための状況、ミャンマーの政治情勢、さらに自由かつ公正な複数政党制による民主的な総選挙の実施に向けた準備状況や、ラカイン州北部の避難民についてミャンマー - バングラデシュ二国間協定に従って審査をおこなっている状況などに関して親密に話し合いました。





#### 5. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に 駐ミャンマースリランカ大使が信任状を提出

駐ミャンマースリランカ大使として任命された H.E. Mrs. Ponnamparuma Arachige Prabashini Ponnamparuma が 2024 年 6 月 11 日午前、ネーपीドーにある国家統治評議会議長室の外交貴賓室にて、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に信任状を捧呈しました。

その後、両国の友好と外交関係に関する事柄、ミャンマーの僧侶や尼僧がスリランカに留学している状況や、スリランカの長老らにミャンマーの宗教に関する栄典を授与する事柄、観光事業促進のために協力している事柄、二国間の相互貿易の促進と、農業や医薬品生産分野での協力に関しての事柄、さらに防衛に関しての協力促進などについて親密に話し合いました。



## 6. ミャンマーにおける 2010 年から 2020 年間の森林破壊率 わずか 0.9 パーセント

ネーपीドー連邦領における 2024 年第 1 回雨季植樹式が 2024 年 6 月 4 日午前、ネーピードー連邦領の Naypyitaw State Academy（ネーピードー国立アカデミー）のキャンパス内で開催され、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が、樹木ならびに森林保全の加速度的な促進や、河川や小川沿いの植樹や維持、また潮害を防ぐための植樹、ASEAN 幹線道路や高速道路の左右道路沿いや鉄道の左右線路沿いに樹木を植え、維持することの必要性を強調しました。

その後、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が国家統治評議会の責務を担った 2021 年より、毎年、植樹式を開催しており、2024 年までにネーピードーでは 8 回の植樹式で 1 万 2455 本の苗木を植え、国軍（陸軍、海軍、空軍）の家族らによって 8 回に渡り 3 万 154 本の苗木が順調に植えられました。2021 年より全国で行われた 1147 回のモンスーン前および雨季の植樹式では合計 77 万 5192 本の苗木が植えられました。

また、ASEAN 加盟国の中で、ミャンマーは森林面積が第 2 位の国であり、国連食糧農業機関の 2020 年の報告書によると、この国の森林被覆率は 42.19%であること、森林破壊率は 2010 年から 2015 年間で毎年 1.7%であったこと、2010 年から 2020 年間は毎年わずか 0.9%の森林破壊率であったことがわかりました。

その後、国家統治評議会の責務を担った 3 年余りの間に、14 か所の自然環境保護区 59 万エーカー超が設立され、森林保護事業に取り組んでいると述べました。

さらに、熱帯地域の緑化のために、多目的の植林地と村の薪用植林地として合計 3551.20 エーカーに 200 万本以上の苗木を 809 の村に植えること、今年の雨季に一村につき 2 エーカーの植林が計画されていること、気候変動緩和のために、樹木や花々を常に瑞々しく美しい状態に保つよう、より多くの森林地を設立することが必要であると述べました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官がネーपीドー連邦領の2024年第1回雨季植樹式でミサキノハナの苗木を植える様子



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官ならびに出席したメンバーらが、2024年雨季植樹式で植えられた苗木を視察する様子

## 7. 国家統治評議会副議長兼副首相ソー・ウィン中将 工業および工業地帯開発中央委員会（1/2024）会議に出席

工業および工業地帯開発中央委員会（1/2024）会議が2024年5月29日午後にネーピーダーの工業省会議室で開催され、工業および工業地帯開発中央委員会委員長の国家統治評議会副議長兼副首相ソー・ウィン中将が出席しスピーチを行いました。

まず初めに、工業および工業地帯開発中央委員会委員長である国家統治評議会副議長兼副首相ソー・ウィン中将が開会のスピーチで、この会議開催の目的は承認・制定された工業地帯法や規則に従って、工業および工業地帯が順調に稼働できる計画を策定すること、国の経済発展に関する枠組みに従って工業地帯の計画を体系的に確立し、国内外の企業家が投資活動を行えるようにすること、加えて、工業地帯のネットワークをより強化させること、工業事業により自然や社会環境に関する管理や、人材に関する管理などについての法律や規則、慣習、基準などに従って体系的に計画的に取り組むこと、工業団地で使用を許可されている土地を有効活用することで、国の経済を向上させる政策を確立し、今後引き続き取り組むプロセスを確立するという目的に従って開催されたと述べました。

さらに、現在までに我が国で開設された工業地帯を見ると、28の主要工業地帯と準工業地帯併せて53あり、5つの工業地区があること、建設中の工業地帯が2つあること、建設済みの工業地帯を高水準に開発するために取り組む必要があること、同時に一方では法律や規則に準拠していない点も整備・修正する必要があること、すでに設立された工業地帯ならびにこれから取り組む工業地帯の順調な実施のために、地域の工業地帯建設管理委員会と自治体の担当者らが監督する必要があること、工業地帯管理委員会が軸となって取り組む必要があること、我が国は市場経済システムを実施している国であり、国が必要とする製品を十分に生産するためには国内外の投資事業者のニーズをできる範囲で支援する必要があること、我が国には経済特区と工業地帯があり、これらは同じ経済地域ではあるがタイプが異なること、特に地方域や州において計画されている工業地帯をティラワ経済特区のように成功させるために、自身の地域の工業地帯において工業地帯法・規則を遵守し取り組む必要があること、法律や規則を熟知・理解し遵守することにより事業を成功に導くことができるであろうと述べました。



8・国家統治評議会議長兼首相代理：国家統治評議会の事務局長アウン・リン・ドエ中将  
ミャンマー国立疾病管理・医療研修センターの開校式に出席

ミャンマー国立疾病管理・医療研修センター(Myanmar National Center for Disease Control and Medical Training Center) の開校式が2024年6月13日午前9時にネ

ミャンマー国立疾病管理・医療研修センター(Myanmar National Center for Disease Control and Medical Training Center) の開校式が2024年6月13日午前9時にネーピードのダキナ・ティリ郡区にある上記センターの建物にて開催され、国家統治評議会議長兼首相の代理として国家統治評議会の事務局長アウン・リン・ドエ中将が出席しました。

初めに開会式で、国家統治評議会議長兼首相の代理として国家統治評議会の事務局長アウン・リン・ドエ中将より、気候変動のプロセスや、人の移動、ライフスタイルの変化により、全世界で動物から感染する感染症を含む新たな感染症の発生や、以前から存在した感染症の再流行にも直面していること、このような問題を克服するために事前に準備をしておくこと、健康上の問題を予防し対応するためには、医療従事者の能力が高まることと、新たな技術を専門的に活用できることが必要であること、我々ミャンマーにおける国際レベルの疾病予防と管理、研究と保健人材中央センターを設立するために、ミャンマーと中華人民共和国の二国間の友好の象徴として、このセンターが中国政府の支援で設立されたこと、ミャンマー国立疾病管理・医療研修センターの計画が中国の通貨約3億3000万元で連邦領ネーピードのダキナ・ティリ郡区にこのように実現し創設されたこと、ミャンマー国立疾病管理・医療研修センターが設立されたことにより、ミャンマーの健康レベルが国際基準に引けを取らず向

上し、国際的な健康の規定や世界的な健康安全対策においても効果的に取り組むことができること、自然災害が発生した場合には、同センターを拠点とする中央レベルの公衆衛生緊急対応センターとして、同センターに設置されたコンピュータ地理情報システム（GIS）や全地球測位システム（GPS）などを活用して対処することができることなどと述べました。

従って、本日開校されたミャンマー国立疾病管理・医療研修センターは、伝染病の予防と制御につながる自然災害を効果的に調整・対応する研究活動を実施することもできること、一カ所に集結した、あらゆる分野から取り組める中央センターとなっているので、我が国にとって非常に役に立つこと、このセンターはミャンマーと中華人民共和国の二国間の既存の友好関係における歴史的な記録だけではなく、ミャンマー国立疾病管理・医療研修センターで、新型コロナウイルス感染症のような公衆衛生上の緊急事態、また新たに発生する感染症の予防・制御、自然災害や公衆衛生上の緊急事態に対する保健部門の備えと対応、国際的な医療に関しても連携し取り組むことや予防接種の拡大、さらに研究事業を実施することができることと述べました。







## 9. 副首相兼外務大臣 駐ミャンマー中国大使と面会

タン・スェ副首相兼外務大臣は、Mr. Chen Hai 駐ミャンマー中華人民共和国大使と2024年5月30日10時30分にネーピードーの外務省で面会しました。

会談では、ミャンマー・中国間の既存の友好関係をさらに揺るぎないものにするこ  
とや、二国間協力プロジェクトを引き続き実現させること、オンライン詐欺集団の撲  
滅に向けた両国の協力に関する事柄や、ミャンマー-中国国境地帯の平和・安定をさら  
に促進させるための継続的な協力に関する事柄、ミャンマーの経済発展のために中国  
からの建設的かつ継続的な取り組みなどを含む地域内および国際面での更なる緊密な  
協力について、親密かつ率直に意見交換を行いました。



## 10. 副首相兼外務大臣 任命が承諾された駐ミャンマーUAE 大使と面会

(2024年6月10日/ネーपीドー)

ミャンマー連邦共和国タン・スェ副首相兼外務大臣は、アラブ首長国連邦 (UAE) 大使として任命が承諾された H.E. Mr. Mutaz Abdullah Abduljaleel Mohamed Al Faheem と 2024年6月10日10時にネーピードーの外務省大臣貴賓室にて面会しました。

会談中、副首相兼外務大臣はまず初めに、大使に、駐ミャンマーアラブ首長国連邦全権大使に任命されたことへの喜びを述べ、ミャンマー - UAE 二国間の既存の友好関係のさらなる強化や、貿易、投資分野を含む二国間協力の推進や、地域および国際面での協力などについて親密かつ率直に意見交換を行いました。



## 11. 副首相兼外務大臣 任命が承諾された駐ミャンマー・スリランカ大使と面会

ミャンマー連邦共和国 タン・スェ副首相兼外務大臣は、駐ミャンマー連邦共和国 スリランカ民主社会主義共和国全権大使としての任命が承諾された H.E. Mrs. Ponnamperuma Arachchige Prabashini Ponnamperuma と、2024年6月10日午前11時にネーピードーの外務省にて面会しました。

会談中、副首相兼外務大臣より大使に、駐ミャンマースリランカ大使に任命されたことへの喜びを述べ、ミャンマー-スリランカ二国間の既存の友好関係や、相互利益についての協力のさらなる促進、また在ミャンマーのスリランカ国民のための領事業務に対する協力などについて親密かつ率直に意見交換を行いました。



## 12・副首相兼外務大臣 スリランカの副外務大臣率いる代表团と面会

タン・スェ副首相兼外務大臣は、スリランカの Hon. Tharaka Balasuriya 副外務大臣率いる代表团と 2024 年 6 月 11 日 13 時 30 分にネーピードーの外務省で面会しました。

会談では、ミャンマー・スリランカ間の既存の友好関係をさらに向上させること、二国間の貿易、投資、農業、教育分野を含む両国の相互利益についての協力のさらなる促進や、在ミャンマースリランカ人のための領事業務について継続的に協力することなどに関して意見を交換しました。



### 13. 副首相兼外務大臣 駐ミャンマー・バングラデシュ大使と面会

ミャンマー連邦共和国タン・スェ副首相兼外務大臣は、H.E. Dr. Md. Monwar Hossain 駐ミャンマーバングラデシュ大使と 2024 年 6 月 13 日 11 時 30 分にネーपीドーの外務省で面会しました。

会談では、ミャンマーとバングラデシュの二国間の友好関係の強化や、多分野の協力促進、さらに両国国境地域の安定と平和を維持するための引き続きの協力、両国の国民同士の連携の促進などについて、友好的かつ率直に意見交換を行いました。





14. ミャンマー連邦と中華人民共和国間の国交樹立 74 周年を記念し、メコン・瀾滄協力特別基金（2024 年）により実施されるプロジェクトに係る資金の引き渡しに関する協定書への署名式開催

(2024 年 6 月 14 日/ネーピードー)

ミャンマー連邦共和国と中華人民共和国の国交樹立 74 周年を記念して、ミャンマー-中国間のメコン・瀾滄協力特別基金（2024 年）により実施されるプロジェクトに係る資金の引き渡しに関する協定書への署名式が、2024 年 6 月 14 日午前、ネーピードーの M ギャラリーホテルで開催されました。

署名式に、タン・スェ副首相兼外務大臣、Chen Hai 駐ミャンマー中国大使、ティン・ウー・ルイン宗教・文化大臣、ミン・ナウン農業・畜産・灌漑大臣、フラ・モー協同組合・農村開発大臣、キン・マウン・イー資源・環境保全大臣、ドクター・チャーリー・タン工業大臣、ドクター・ミョー・テイン・チョー科学・技術大臣、ルイン・ウー外務副大臣ならびに、関係省庁の高官らが出席しました。

署名式では、タン・スェ副首相兼外務大臣がオープニングスピーチで、ミャンマー-中国間の長きにわたる友好関係（Pauk-Phaw）や1950年6月8日に樹立された二国間の外交関係について祝意を述べました。さらに、平和共存政策に基づき2011年には二国間関係が包括的戦略協力へと前進し、2020年にはミャンマーと中国は未来を共有する共同体へと引き続き前進したと述べました。副首相は、中国の資金提供を受けて2017年に開始されたメコン・瀾滄協力特別基金プロジェクトと同様に、メコン・瀾滄協力の成功を強調して述べました。また、メコン・瀾滄協力の枠組みの中の協力分野7項目で実施されるプロジェクトを支援する中国に感謝していること、ミャンマーは中国およびメコン・瀾滄協力加盟国とともに、地域の平和・繁栄さらに安定を「一つの川と共通の未来」というメコン・瀾滄協力の精神に基づいて、ともに協力する決意を改めて表明しました。

続いて、Chen Hai 駐ミャンマー中国大使のオープニングスピーチにおいても、両国の友好、相互理解と尊敬、支援などについて回想がなされ、メコン・瀾滄協力は、未来を共有する共同体を協力して構築する上での重要な回廊であると強調して述べました。さらに、中国としてミャンマーを含むメコン・瀾滄協力加盟国との二国間および多国間協力を促進していくことや、ミャンマー国民の利益のためにメコン・瀾滄協力特別基金プロジェクトの実施において引き続き支援していくことなどを述べました。

その後、メコン・瀾滄協力特別基金（2024年）により実施されるプロジェクトに係る資金の引き渡しに関する協定書に、ルイン・ウー外務副大臣ならびにChen Hai 駐ミャンマー中華人民共和国大使が署名、交換を行いました。

上記協定書に従って、メコン・瀾滄協力特別基金（2024年）を通じてミャンマーの6つの省庁が実施する12件のプロジェクトのために、USドル約3600万が中国よりミャンマーに引き渡されました。この12件のプロジェクトは、農畜産業、森林資源の保護と保全、中小企業における環境に有益な慣行やイノベーションの導入への取り組み、村落における貧困の削減、情報技術革新や文化部門の促進など、様々な分野で実施されるものです。ミャンマーは、中国が支援するメコン・瀾滄協力を通じて、2017年から2024年までにUSドル約3500万相当、118件のあらゆる分野のプロジェクトを受け取りました。





## 15. 第 19 回アジア協力対話（ACD）外相会合開催中に タン・スェ副首相兼外務大臣がテヘランにてイラン外相と個別会談

第 19 回アジア協力対話（ACD）の外相会合に出席するため、テヘランを訪問中のタン・スェ副首相兼外務大臣は、ACD の現議長であるイラン・イスラム共和国の Dr. Ali Bagheri Kani 外務大臣と 2024 年 6 月 23 日現地時間 10 時にテヘラン市で個別に会談しました。

イランの外務大臣との会談中、副首相兼外務大臣は、政府が平和や発展ならびに民主化実現のために尽力していることや、ミャンマーの現在の発展状況などを含めて説明を行いました。

さらに、両外相はミャンマー - イラン二国間の友好ならびに両国の関係のさらなる強化や、ACD 組織内での協力を含む地域と国際面でのさらなる緊密な協力などについて、親密かつ率直に意見交換を行いました。

この会談に、モー・チョー・アウン駐イランミャンマー大使ならびに外務省やエネルギー省の高官らが出席しました。

第 19 回アジア協力対話（ACD）の外相会合の開催前に ACD 高官会議が 2024 年 6 月 23 日にテヘランで開催され、外務省政治局のタン・トエ局長率いるミャンマー代表団が出席しました。

EMBASSY OF MYANMAR





## 16, ルイン・ウー外務副大臣 スリランカの国会議員らと面会

ルイン・ウー外務副大臣はスリランカ民主社会主義共和国の国会議員 Hon. Sujith Sanjaya Perera、Hon. J. C. Alawathuwala ならびに Hon. Wasantha Yapa Bandara らを含む代表团と2024年5月29日午前11時にネーपीドの外務省にて面会しました。

会談では、ミャンマー・スリランカ二国間の友好関係の向上や、両国に利益をもたらす分野での協力の促進、また在ミャンマースリランカ人に対しての領事支援などについて友好的に意見交換を行いました。



## 17. ASEAN 委員会（東京）主催の日本の労働政策会議にソー・ハン大使が出席

(2024 年 7 月 6 日/東京)

日本の労働政策会議が、ASEAN 委員会（東京）の輪番制議長であるインドネシア大使の主催により、2024 年 7 月 6 日 15 時にインドネシア大使館で開催され、ソー・ハン駐日ミャンマー大使が ASEAN 加盟国の大使、臨時担当者、労働関係の書記官らと共に出席しました。

会議では、入国在留管理庁の福原伸子 在留管理支援部長が特別来賓として出席され、日本政府として、現在の技能実習生制度を停止し、新たなプログラムを策定できるよう取り組んでいる状況や、改定した特定技能制度など、日本政府の労働に関する政策についての実施状況などについて説明しました。

ソー・ハン大使が、現在の技能実習生制度を停止し新たなプログラムを策定することについて、期限や送り出し国と日本との新たな協力覚書の締結などについて質問し、福原伸子 在留管理支援部長が、新たなプログラムが日本の国会で承認されたのちに 3 年間の準備期間が設けられ、送り出し国との新たな協力覚書の再締結に向けた交渉は、日本の国会の承認を経て行うことができるであろうと説明しました。

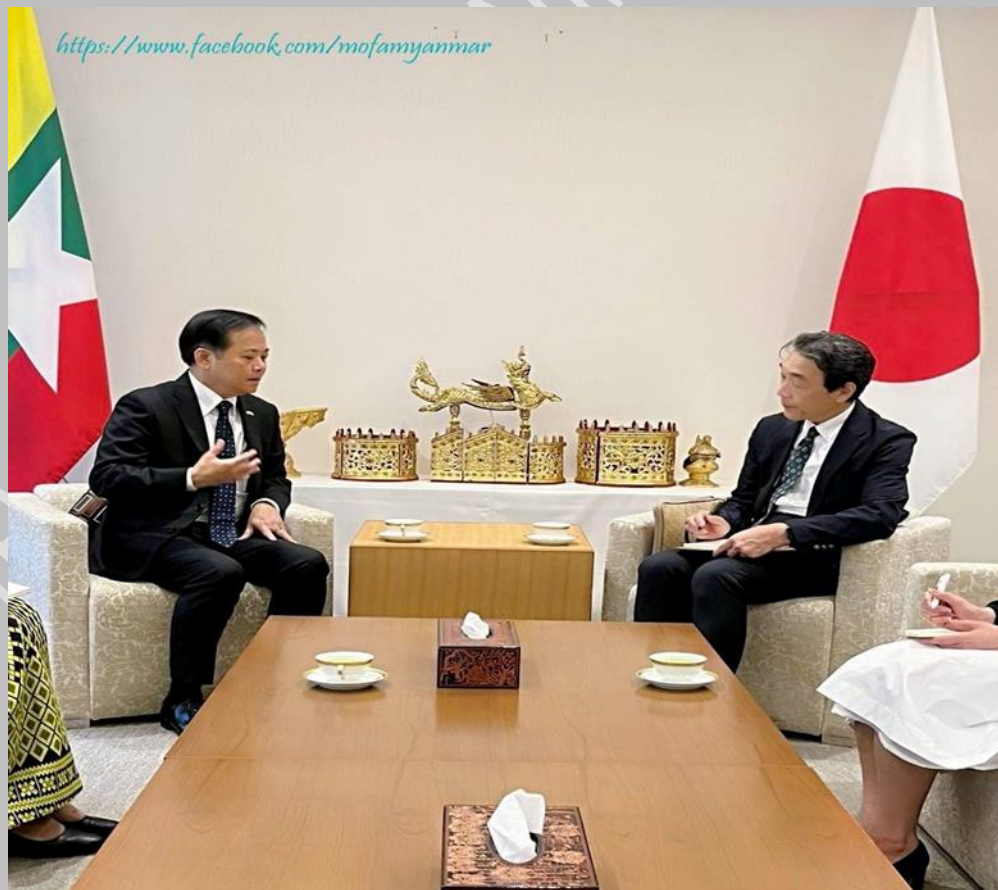
その後、出席した大使、大使館臨時担当者や代表者らによる労働関係についての質疑応答が行われ、会議は16時30分に終了しました。



## 18. ソー・ハン駐日ミャンマー大使 日本アセアンセンターの平林国彦事務総長と面会

ソー・ハン駐日ミャンマー大使は、日本アセアンセンターの平林国彦事務総長と2024年6月14日午前、駐日ミャンマー大使館で面会しました。

会談では、駐日ミャンマー大使館と日本アセアンセンター間の協力状況や、2024会計年度内に日本アセアンセンターとの協力で実施する事業プロジェクトなどについて、親密かつ率直に意見交換を行いました。



## 19. 国際大学（IUJ）で開催された「2024年度修了式」に駐日ミャンマー大使が出席

2024年6月22日/東京)

国際大学（IUJ）の「2024年度修了式」が2024年6月22日午前10時30分に南魚沼市民会館で開催され、ソー・ハン駐日ミャンマー大使が日本に拠点を置く12の大使館の大使や大使館代表者らとともに出席しました。

上記の「2024年度修了式」では、49か国からの卒業生161名に学位が授与され、ミャンマーからは博士号取得者1名と修士号取得者6名に学位が授与されました。







EMBASSY OF MYANMAR

## 20. 外務省事務次官 Mr. Mongkol VISITSTUMP 駐ミャンマー タイ大使と面会

(2024 年 6 月 5 日/ネーピードー)

外務省事務次官は、Mr. Mongkol VISITSTUMP 駐ミャンマー連邦共和国 タイ国特命全権大使と 2024 年 6 月 5 日 14 時にネーピードーの外務省で面会しました。

会談では、ミャンマーとタイの既存の友好関係や二国間協力のさらなる強化について親密かつ率直に意見を交換し、両国間の共通利益となるあらゆる分野での協力の拡大や、地域・国際面でのより緊密な協力などについて話し合いました。



## 21. 外務省事務次官 駐ミャンマー国連人道問題調整事務所（UNOCHA）の Mr. Sajjad Mohammad Sajid 所長と面会

(2024年6月4日/ネーピードー)

外務省事務次官は、駐ミャンマー国連人道問題調整事務所（UNOCHA）の Mr. Sajjad Mohammad Sajid 所長と 2024年6月4日10時にネーピードーの外務省にて

面会しました。

会談では、ミャンマー政府と国連人道問題調整事務所（UNOCHA）の最近の協力について話し合いました。



## 22. 外務省事務次官 マレーシア大使館の臨時代理と面会

外務省の事務次官が、ヤンゴンに拠点を置くマレーシア大使館の Mr. Johan Ariff Abdul Razak 臨時代理と 2024 年 6 月 11 日午前 10 時、ネーपीドーの外務省にて面会しました。

会談では、ミャンマーとマレーシア間の既存の友好関係や様々な分野における二国間協力を今後さらに強化していくことなどについて、親密かつ率直に意見交換を行い、また地域・国際面でのより緊密な協力などについて話し合いました。



## 23. 外務省政治局長率いるミャンマー代表団が中華人民共和国を訪問

(2024年6月6日/ネーपीドー)

中華人民共和国の招待により、ミャンマー連邦共和国外務省政治局のタン・トゥエ局長率いる9名のメンバーを含むミャンマー代表団は、2024年5月30日から6月5日まで、中華人民共和国の昆明市ならびに上海市、北京市などを訪問しました。

訪問中の5月31日には、ミャンマー代表団は雲南省外務オフィスの Mr. Yang Shaocheng 副局長ならびに担当者らと、6月3日にはアジア局の Mr. Liang Jianjun 副局長ならびに担当者らと個別に面会しました。

会談では、ミャンマ - 中国間の既存の友好関係 (Pauk-Phaw) と協力の促進やミャンマー - 雲南省間の相互協力のメカニズムの回復、一帯一路構想 (BRI) に基づくミャンマー - 中国経済回廊における二国間協力プロジェクトの加速度的な実現、両国国境地域の安定と法秩序、両国間の迅速かつ円滑なビジネスと貿易の促進、人的コミュニケーションの促進や、ミャンマーの人材育成への中国からの継続的な支援などについて意見交換を行いました。

## 24. 2024-2025 会計年度の海外貿易額 US ドル 330 億に達すると予測

商業省は、2024-2025 会計年度の輸出額は US ドル 167 億、輸入額は US ドル 163 億となり、海外貿易総額は US ドル 330 億に達するとの予測を発表しました。

2024-2025 会計年度の海外貿易目標を達成するために、政府省庁と関連団体は尽力しています。2024-2025 会計年度4月1日から5月17日の間にミャンマーは US ドル 17 億 6000 万相当の商品を輸出し、US ドル 17 億 7000 万相当の商品を輸入したことにより、海外貿易総額 US ドル 35 億以上を獲得したと商業省より発表がありました。

2023-2024 会計年度の同時期には、海上ルートを通じて US ドル 28 億 6000 万、国境ゲートを通じて US ドル 6 億 8456 万を獲得し、総額は US ドル 35 億 4000 万になりました。

ミャンマーからは農産物、畜産物、水産物、鉱物製品、林産物、工業完成品やその他の商品を輸出しており、投資財、工業用原料、日用品原料、CMP 原料や日用品などを輸入しています。

ミャンマーは輸出を促進するために、国家輸出戦略 (NES) 2020-2025 を実現しています。その戦略の優先部門は、農産物、衣料品及び繊維部門、電気・電子機器部門、水

産物、林産物、デジタル製品及びサービス部門、物流サービス部門、品質管理部門、貿易の情報サービス部門とイノベーションおよび新しい製品についての分野が含まれます。



## 25. 2024-2025 会計年度の最初の 1 か月間のミャンマーと中国の国境貿易額 US ドル 2 億 8,000 万を獲得

2024-2025 会計年度の 4 月 1 日から 5 月 10 日までのミャンマー - 中国の国境貿易額は、US ドル 2 億 8044 万で、前年同期の US ドル 4 億 770 万と比較して、今年は US ドル 1 億 2728 万ドル減少したと商業省より発表がありました。

ミャンマーは、ムセ、ルエジェ、チンシュエホー、カンパイティーやチャイントンなどの国境貿易ゲートを通じて中国と貿易を行っています。ムセ国境ゲートでは貿易額が最多で US ドル 1 億 4028 万ありました。カンパイティー国境ゲートでは US ドル 6766 万、ルエジェ国境ゲートでは US ドル 121 万 4000、チャイントン国境ゲートでは 7127 万相当の貿易がなされました。

ミャンマーは中国、タイ、バングラデシュとインドとの国境ゲートを通じて貿易が行われています。ミャンマーから農産物、畜産物、水産物、鉱物製品、林産物、工業完成品やその他の商品を輸出しており、投資財や日用品、CMP 原料を輸入しています

## 26. 2024-2025 会計年度 4月 ヤンマー産割れ米を中国へ最も多く輸出

2024-2025 会計年度の4月に、ミャンマー産割れ米を2万6000トンと中国へ最も多く輸出し、次いでベルギーに2万4000トン、スペインに1万6000トン輸出したとミャンマー米穀連盟より報告がありました。

ミャンマーは海外へコメと割れ米を海上ルートを通じて11万1462トン、国境ルートを通じて400トンを輸出したと発表がありました。

ミャンマー米穀連盟は2024-2025 会計年度に、コメ200万トン以上を輸出し、US ドル11億の収入を目指しています。現在ミャンマーはコメをヨーロッパ 諸国に主に輸出し、高品質なコメを中国、インドネシアやフィリピンへ輸出しています。

ミャンマーは2022-2023 会計年度（4月から3月まで）にコメと割れ米を226万1203トン輸出しUS ドル8億5347万2000を獲得しました。



27. 2024-2025 会計年度の 2 か月間に豆類 41 万トン以上を輸出  
US ドル 3 億 5 7 0 0 万を獲得

ミャンマーは 2024-2025 会計年度の 4 月 1 日から 5 月 24 日までに豆類 41 万トン以上を輸出し、US ドル 3 億 5 7 0 0 万を獲得したと商業省より報告がありました。

ミャンマーは 2024-2025 会計年度 4 月 1 日から 5 月 24 日までに、US ドル 3 億 4 5 1 2 万 1 0 0 0 相当の豆類 40 万 2 2 1 0 トンを海上輸出し、US ドル 1 1 8 9 万相当の豆類 1 万 3 6 0 0 超を国境ゲートから近隣諸国へと輸出しました。

2023-2024 会計年度には、ミャンマーから海外へ US ドル 1 4 億 8 4 0 0 万超相当の豆類 176 万トン超を輸出したと商業省よりの発表がありました。

ミャンマーはマッペ、緑豆、キマメを主に海外に輸出していますが、マッペとキマメをインド、緑豆を主に中国やヨーロッパ諸国に輸出しています。最近、インドでマッペとキマメの需要が増加していることがわかりました。

インド政府はマッペ 25 万トンとキマメ 100 万トンを 2021-2022 会計年度から 2025-2026 会計年度にかけて 5 年連続で購入する覚書をミャンマー政府と 2021 年 6 月 18 日に締結しています。この政府間で署名された覚書は、インド政府が定める豆の年間輸入制限には影響を及ぼさないため、ミャンマーの豆輸出業者は覚書に従ってインドへ豆類を継続的に輸出しています。

ミャンマーでは毎年マッペ 40 万トン、キマメを 5 万トン生産しています。インドが購入しているマッペという品種は、ミャンマーで最も多く栽培されている豆類で、他の豆類のキマメ、インゲン、ひよこ豆などはアフリカやオーストラリアで生産されているとミャンマー豆類・トウモロコシ・ゴマ貿易協会が明らかにしています。





## 28. 2024年5月にトウモロコシを予測以上に輸出

2024-2025会計年度の国家輸出目標を達成するために、商業省は品目ごとに毎月の輸出予測を立てています。

2024-2025会計年度の最初の3カ月間4月、5月と6月に、トウモロコシの輸出量を38万トンと予測しており、実際、2024年5月末までのトウモロコシ輸出量は47万8000トン超だったので予測以上を輸出できました。2024年6月4日のリストによると、海外へトウモロコシを輸出するために、国際港に14隻の船が停泊しています。

コーン穀粒5400トンをミン・テッ・ミン港(MHM)から、コーン穀粒2700トンをシュエメ栈橋(SMJ)から、コーン穀粒2万5000トンをティラワ多目的国際ターミナルから、コーン穀粒1万1000トンをウィルマー国際港ターミナルから、コーン穀粒2万6000トンをミャンマー・インテグレイティド・ポート・リミテッドから、コーン穀粒2万7500をミャンマー国際ターミナル ティラワから、コーン穀粒2万5000トンをミャンマーターミナルから、コーン穀粒2万672トンをスーレパゴダ埠頭から、コーン穀粒3万6500トンをミャンマー工業港から、コーン穀粒9500トンをヤンゴン国際ゲートウェイ・ターミナルから、コーン穀粒3万2058トンをアローン国際港ターミナルから、合計コーン穀粒22万1330トンを海外へ輸出する予定です。

タイは2024年2月から8月の間に、ミャンマーが輸出するトウモロコシを免税とする予定があるため、ミャンマー・トウモロコシ産業協会は今年8月までに輸出できるよう尽力しています。



## 29. 海外に8隻の貨物船でミャンマーのコメを輸出

ミャンマーのコメ13万5000トン超を外国に輸出するため、船積みがおこなわれていると商業省より発表がありました。

商業省はコメの輸出目標の達成のために、コメ、割れ米、豆類、トウモロコシ、ゴム・水産物に関する企業の輸出可能量に基づいて、関係部署と組織間で調整を行っています。商業省は、ミャンマー商工会議所、ミャンマー米穀連盟、ミャンマー豆類・トウモロコシ・ゴマ貿易協会、ミャンマー縫製業者協会、ミャンマー工業製造者協会、ミャンマーゴム生産者協会、ミャンマー水産物生産輸出業者協会などと協力して、順調な輸出の促進と輸出目標の達成に取り組んでいます。

ミャンマー米穀連盟は2024-2025会計年度に250万トンのコメを輸出することを目標としています。ミャンマーのアローン国際港ターミナル (AIPT) から1万2500トン、ヤンゴン国際ゲートウェイターミナル (YIGT) から1万2500トン、ミャンマー・ターミナルから1万トン、ウィルマー国際港ターミナルからは9800トン、スーレーパゴダ埠頭から9万1120トン、合計13万5920トンのコメが輸出されています。また、ヤンゴン港を經由して4隻の貨物船で7万4000トンのコメが海外に輸出されています。

2022-2023 会計年度（4月から3月）には、ミャンマーから 226 万 1203 トンのコメと割れ米を輸出し、US ドル 8 億 5347 万 2000 を獲得しました。

### 30. 2024 年 5 月 ミャンマーから海外に 1 万 9000 トン超のゴムを輸出

2024-2025 会計年度の 5 月に、ミャンマーから 1 万 9000 トン超のゴムが輸出され、総額 US ドル 2680 万の収益を上げたと言商業省より発表がありました。

ミャンマーから中国にゴムを 8270 トン、マレーシアに 6670 トン、ベトナムに 2190 トン、インドネシアに 500 トン、日本に 360 トン、インドに 315 トン、韓国に 100 トン超、スリランカとバングラデシュに数トン輸出し、US ドル 2388 万相当のゴム併せて 1 万 7300 トン超を輸出しました。

ミャンマーは 2024 年 5 月 1 日から 24 日までに、タイにゴムを 1610 トン超、中国に 516 トンを輸出し、合計 US ドル 293 万相当のゴム 2120 トン超を輸出しました。

さらに、ミャンマーから 2024 年 5 月に、US ドル 6448 万相当のマッペ 6 万 6036 トン、US ドル 3478 万 7000 相当のヒヨコ豆 5 万 3630 トン、US ドル 3226 万相当のキマメ 2 万 7500 トン超を輸出し、合計 US ドル 1 億 3129 万相当のマッペ、キマメとヒヨコ豆併せて 14 万 7170 トンを輸出しました。

ミャンマーは 2024 年 5 月にマッペ 5 万トン超をインドに輸出し、ヒヨコ豆とキマメをインド、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ベトナム、パキスタン、中国とタイに輸出しました。

**Source: The Global New Light of Myanmar (5-6-2024)**



### 31. 2024-2025 会計年度の 2 か月間で、480 トン超のミャンマー産ハチミツを輸出

ミャンマーは、2024-2025 会計年度の 4 月 1 日から 5 月 31 日までに、US ドル 73 万 2000 相当、488.21 トン超のハチミツを輸出したと畜産獣医局の養蜂開発部より発表がありました。

ミャンマーは 2024-2025 会計年度の 2 か月間で 461.21 トンのハチミツを海上より輸出し、27 トンのハチミツを国境経由で輸出しました。

ミャンマーから 279.21 トン、US ドル 41 万 8815 相当を日本へ、0.5 トン、US ドル 750 相当を韓国へ、181.5 トン、US ドル 27 万 2250 相当をタイへ、また 27 トン、US ドル 4 万 500 相当のハチミツを中国へ輸出しました。

ミャンマーからハチミツを、中国、日本、韓国、タイ、米国ならびにシンガポールに輸出しており 2023-2024 年度には 2200 トン超のハチミツを海外に輸出しました。

ミャンマーは、ごまハチミツ (Sesame Honey)、ナツメハチミツ (Jujube Honey)、キツネノマゴハチミツ (Niger Honey)、ひまわりハチミツ (sunflower Honey)、ライチハチミツ (Lychee Honey)、フラワーハチミツ (Flower Honey) など、年間 4000 トン以上のハチミツを生産しています。

ミャンマーでは、毎年、ハチミツの総生産量の 60%を海外へ輸出し、40%を国内で販売しています。国内でハチミツは漢方薬として使われており、現在ミャンマーハチミツは1 トン当たり US ドル 2500-3000 の価格で海外に輸出されています

現在、ミャンマーの 31 の郡区において、政府所有の養蜂キャンプにて 6200 の巣箱で飼育が行われています。民間養蜂会社 950 社以上でも巣箱 20 万個以上で飼育されています。

**Source: The Global New Light of Myanmar (8-6-2024)**



### 32. 2024-2025 会計年度の最初の 2 か月間におけるミャンマー - 中国の国境貿易 US ドル 4 億超達成

2024 年-2025 会計年度の最初の 2 か月間のミャンマーと中国の国境貿易額は、US ドル 4 億 1686 万 7000 で、前年同期の US ドル 6 億 4043 万と比較して、US ドル 2 億 2356 万 4,000 減少したと商務省より発表がありました。

ミャンマーはムセ、ルエジェ、チンシュエホー、カンパイティーやチャイントンなどの国境貿易ゲートを通じて中国と貿易を行っています。ムセ国境ゲートでは貿易額が最多で US ドル 2 億 1566 万 8000 ありました。カンパイティー国境ゲートでは US ドル 9279 万 6000、ルエジェ国境ゲートでは US ドル 121 万

4000、チャイントン国境ゲートでは US ドル 1 億 718 万 9000 相当の貿易がなされました。

ミャンマーは中国、タイ、バングラデシュとインドとの国境ゲートを通じて貿易が行われています。ミャンマーは農産物、畜産物、水産物、鉱物製品、林産物、工業完成品やその他の商品を輸出しており、投資財や日用品、CMP 原料を輸入しています。



### 33. 2024 年 5 月に 7 万 1000 トン超のミャンマーのコメを輸出

2024 年 5 月に、7 万 751 トンのコメと割れ米が海上輸送され、528 トンが国境ゲートを経由して輸出され、合計 7 万 1000 トン超が海外に輸出されたとミャンマー米穀連盟より発表がありました。

ミャンマーは、2024 年 4 月に、11 万 1000 トンのコメと割れ米を輸出し、海路で 11 万 1460 トン、国境経由で 400 トンを輸出しました。

ミャンマーは、2024 年-2025 会計年度の最初の 2 か月間で 18 万 3141.5 トンのコメを輸出しました。

ミャンマー米穀連盟は、2024-2025 会計年度に 250 万トンのコメを輸出し、US ドル 10 億米ドルの収益を目指しています。

商業省はコメの輸出目標の達成のために、コメ、割れ米、豆類、トウモロコシ、ゴム・水産物に関する企業の輸出可能量に基づいて、関係部署と組織間で調整を行っています。

商業省は、ミャンマー商工会議所、ミャンマー米穀連盟、ミャンマー豆類・トウモロコシ・ゴマ貿易協会、ミャンマー縫製業者協会、ミャンマー工業製造者協会、ミャンマーゴム生産者協会、ミャンマー水産物生産輸出業者協会などと協力して、順調な輸出の促進と輸出目標の達成に取り組んでいます。

2022-2023 会計年度（4月から3月）には、ミャンマーから 226 万 1203 トンのコメと割れ米を輸出し、US ドル 8 億 5347 万 2000 を獲得しました。

Source: The Global New Light of Myanmar (2024 年 6 月 14 日)



## 34. 2024-2025 会計年度にミャンマーの空港7つを改修

2024-2025 会計年度に、ミャンマーにある空港7つをレベルアップさせるために改修工事を行うと運輸・通信省より報告がありました。

レベルアップのために改修する空港はモーラミヤイン空港、タントエ空港、プタオ空港、タチレイ空港、ハンタワディ空港、ミエイ空港とコートウン空港です。

滑走路の改修は、長さ8000フィートと幅150フィートの滑走路を長さ9000フィートと幅150フィートまで拡張します。

空港施設の改修は、カチン州のプタオにある長さ8500フィート、幅100フィートの滑走路をアスファルト層に改修し、タチレク空港は空港保安のために破損した塀をレンガ塀に改修する予定です。

また、モーラミヤイン空港に長さ1万5450フィート、高さ10フィートある塀を設置し、9690.4 エーカーの土地に開設されるバゴ-地方域のハンタワディ空港の保安のために、長さ3400フィート、高さ10フィートの塀を設置します。さらに、ミエイ空港は長さ9000フィートと幅200フィートある滑走路をアスファルトコンクリート舗装で整備します。コートウン空港に長さ6000フィート、幅150フィートある滑走路もアスファルトコンクリートで改修します。





### 35. 2024-2025 会計年度の 4 月と 5 月に中国が最も多くミャンマーのコメを購入

2024 年-2025 年会計年度の 4 月と 5 月の 2 か月間で、中国はミャンマーからコメ 5 万 2500 トン輸入し、最も多く購入した国であったこと、ミャンマー産のコメの購入国第 2 位はベルギーで 2 万 6700 トン超のコメが購入されたこと、第 3 位の購入国はインドネシアで 2 万 6600 トン超のコメが購入されたとミャンマー米穀連盟より発表がありました。

さらに、2024-2025 会計年度の 4 月と 5 月には、1 万 600 トン超のミャンマー産のコメがスペインへ、1 万トン超がカメルーンへ輸出されました。ミャンマーは 2024 年-2025 会計年度の 4 月と 5 月の 2 か月間で 18 万 3141.5 トン超のコメを海外に輸出し、US ドル 9126 万獲得しました。

ミャンマー米穀連盟は、2024-2025 会計年度に 250 万トンの米を輸出し、US ドル 10 億の収益を目指しています。

商業省は、ミャンマー商工会議所、ミャンマー米穀連盟、ミャンマー豆類・トウモロコシ・ゴマ貿易協会、ミャンマー縫製業者協会、ミャンマー工業製造者協会、ミャンマーゴム生産者協会、ミャンマー水産物生産輸出業者協会などと協力して、順調な輸出の促進と輸出目標の達成に取り組んでいます。

ミャンマー米穀連盟として、2023-2024 年度に 250 万トンのコメを輸出し、US ドル 10 億の収益を目標としていましたが、輸出されたコメは 160 万トンで、US ドル 8 億 4500 万の収益にとどまりました。

2022-2023 会計年度（4 月から 3 月）にミャンマーは 226 万 1203 トンの米と割れ米を輸出し US ドル約 8 億 5347 万 2000 獲得しました。

Source: The Global New Light of Myanmar（2024 年 6 月 18 日）



### 36. ミャンマーから7か月間に600トン超のエビを中国に輸出

ミャンマー水産局によると、2023年11月から2024年5月までの7か月間で、ミャンマーから627トンのエビを中国に輸出し、USドル179万5000を獲得しました。

会計年度の4月から3月までの間に、約1万トン（USドル3818万相当）のエビが海外に輸出され、海上輸出にて9137トン、USドル3374万相当、国境経由で841.67トン、USドル444万5000相当のエビが輸出されたと商業省より発表がありました。

ミャンマー漁業連盟の発表によると、ミャンマーから海外に、ガタラウ（ヒルサ）、ナマズ、アカメ、コイなどを含む20種類以上の魚類を輸出販売しています。ミャンマーは水産物を主に中国やタイなど海外40カ国以上に輸出しています。

**Source: The Global New Light of Myanmar (18-4-2024)**



### 37. 2024-2025 会計年度の最初の 2 か月におけるミャンマーの対外貿易額 45 億ドル超

2024-2025 会計年度の最初の 2 カ月間に、ミャンマーは US ドル 22 億 4300 万相当の商品を輸入し、US ドル 23 億 700 万相当の商品が輸出され、貿易総額は US ドル 45 億 5000 万であったと商業省から発表がありました。

2024-2025 会計年度の最初の 2 か月で、海上貿易は US ドル 36 億、国境貿易は US ドル 9 億 1190 万でした。前年同期の貿易総額は US ドル 53 億で、前年と比べ US ドル 7 億 7197 万減少しました。

ミャンマーからは農産物、畜産物、水産物、鉱物製品、林産物、工業完成品やその他の商品を輸出しており、投資財、工業用原料、CMP 原料や日用品などを輸入しています。

ミャンマーは輸出を促進するために、国家輸出戦略(NES)2020-2025 を実現しています。その戦略の優先部門は、農産物、衣料品及び繊維部門、電気・電子機器部門、水産物、林産物、デジタル製品及びサービス部門、物流サービス部門、品質管理部門、貿易の情報サービス部門とイノベーションおよび新しい製品についての分野が含まれます。

**Source: The Global New Light of Myanmar (16-6-2024)**



### 38. カンパイティー国境ゲートからの貿易額 2024-2025 会計年度の6月の目標をUSドル500万超

2024-2025会計年度6月に、ミャンマー・中国国境ゲートの一つであるカンパイティー国境からUSドル400万相当の商品を輸出し、USドル100万相当の商品を輸入して、貿易総額USドル500万獲得できるよう目標としていると商業省より発表がありました。

2024年6月10日までにカンパイティー国境ゲートからUSドル725万5000相当の商品を輸出し、USドル460万相当の商品が輸入され、貿易総額USドル1185万6000となりました。従って、目標の237%以上が達成されました。

カンパイティー国境ゲートから輸出している商品は主に、Tissue Banana（ティッシュバナナ）、乾燥唐辛子、玉ねぎ、乾燥マンゴー、キンマの実、カルダモンの種子、豆類、タマリンドとアルミニウムのピースです。輸入している主な商品は、投資財、原料、建設資材、日用品、果実や燃料などです。

2024年6月9日から10日にUSドル1130万相当のティッシュバナナ325トン、USドル21万2000万相当の玉ねぎ534.7トン、USドル18万相当の黒カルダモン90.3トン、USドル3万6000相当のコショウ24.2トン、USドル8000相当のキンマの実5トン、USドル84万2000相当の豆類1088トンを輸出しました。

輸入した主な商品は、パイプ、鉄パイプ、セラミックタイル、タイヤ、オレンジ、リンゴ、ナシ、衣服、燃料などです。輸入品にはUSドル16万8000相当の投資財68.8トン、USドル80万相当の原材料240トンとUSドル18万3000相当の日用品216.4トンが含まれています。



### 39. 2024-2025 会計年度の最初の 2 か月間で ミャンマーとタイの国境貿易額 US ドル 5 億近くに到達

商務省によると、2024-2025 会計年度の 4 月から 5 月 10 日までのミャンマー-タイの国境貿易額は US ドル約 4 億 9500 万でした。2023-2024 会計年度同時期のミャンマー-タイ国境貿易額は US ドル 8 億 2960 万であったため、US ドル 3 億 3460 万減少したと商務省より報告されました。

ミャンマーはタイとミャワデイ、タチレク、コータウン、ミヤイ、ティキ、モータウンやメセの国境貿易ゲートを通じて貿易を行っています。2024-2025 会計年度では最初の 2 か月間で、ティキの国境ゲートで最も多くの貿易が行われ、その額は US ドル 3 億 1654 万でした。

ミャワデイの国境ゲートを通じて US ドル 5095 万、タチレクを通じて US ドル 4464 万、ミヤイを通じて US ドル 3545 万、コータウンを通じて US ドル 3938 万、さらにモータウンを通じて US ドル 800 万の貿易が行われました。

ミャンマーは中国、タイ、バングラデシュ、インドと国境ゲートを通じて貿易を行っています。ミャンマーからは農作物、畜産物、水産物、鉱物製品、林産物、工業完成品やその他の商品を輸出しており、投資財や日用品、CMP 原料などを輸入しています。



#### 40. 2024-2025 会計年度の最初の 2 か月間で約 4 万 8000 トンの水産物を輸出

2024-2025 会計年度の 4 月から 5 月までの 2 か月間で、ミャンマーは 4 万 7719.523 トンの様々な魚類、US ドル 5160 万相当を海外に輸出しました。2 万 3687.149 トンの様々な魚類が海上輸出され、国境ゲートから 2 万 4032.374 トンが輸出されたと水産局より発表されました。

2023-2024 会計年度の同時期には、US ドル 2 万 6946 相当の様々な魚類 1 万 9593.73 トンの輸出であったため、前年比 2 万 8125.793 トン増加しました。

ミャンマーは、水産物を中国、タイ、バングラデシュ、日本を含む計 40 か国以上に輸出しており、一部はヤンゴン経由で、一部は国境ゲートを通じて輸出しています。

**Source: The Global New Light of Myanmar (15-6-2024)**



41. 2024年1月から5月までにミャンマーへ空路を通じて  
外国人観光客10万人以上が訪問

2024年1月から5月までの5カ月間に、ミャンマーへ空路で訪れた観光客10万人以上の中で、多くは中国とタイからの訪問であったとホテル観光局より報告がありました。

2023年の同時期と比べると観光客は1000人以上増加し、観光客らは商用ビザや観光ビザで主にヤンゴン、バゴーとバガンを訪れていました。

外国人観光客は2024年最初の5カ月間に、ビーチを訪れる観光客は減少し、タイからの観光客は主にバゴーを訪れました。2023年ミャンマーを訪れた外国人観光客は100万人以上であったと発表がありました。

**Source: The Global New Light of Myanmar (15-6-2024)**





## 42. 観光客1人当たり1本の木を植えるプロジェクト 7月より開始

ホテル観光局は、ミャンマーを訪れる観光客に対し、ネーピードー、バガン、マンダレー、ヤンゴン、チャウンター、グエサウンなどで、「観光客1人につき1本の植樹プログラム」を2024年7月より実施することがわかりました。

このプログラムは、生物多様性の拡大に向けた植樹や環境緑化のために、海外からの観光客1人当たり1本の木を植える計画であること、またこのプログラムを通じてミャンマーを訪れる海外からの観光客が増加することを目的としています。

植樹のためにミャンマーを訪れる観光客を対象に、このプログラムは2024年7月から11月までネーピードー、バガン、マンダレー、ヤンゴン、チャウンター、グエサウンの6か所で実施されます。

観光客は個人またはグループで訪れる者や、中には観光事業サービスなどでミャンマーに入国する方々があります。今回の植樹のプログラムは観光業界との協力で実施されます。

2024年1月から5月までに、10万人以上の観光客が空路で入国していること、最多訪問者は中国とタイからであることがわかりました。



## 43. ミャンマー初のポッパ山国立公園 世界水準のジオパークとしての認定が近づく

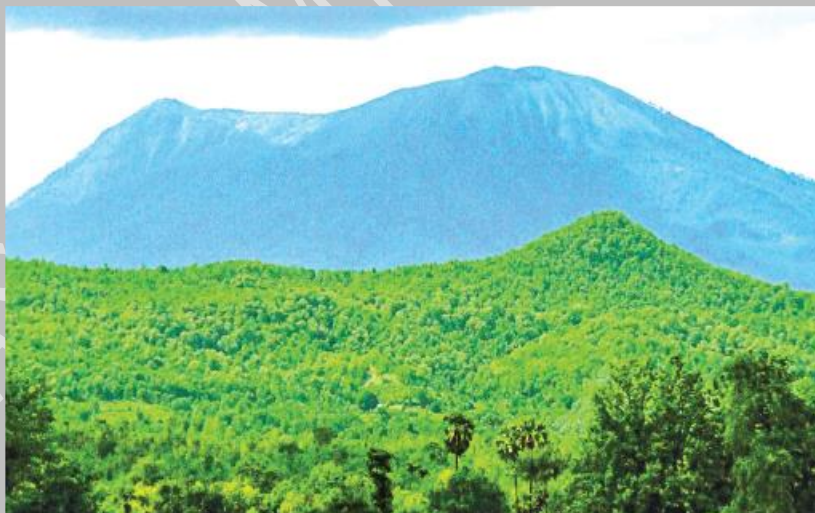
ポッパ山国立公園が世界水準のジオパークの一つとして認定されるよう、必要な準備が進められていると資源・環境保全省より発表がありました。

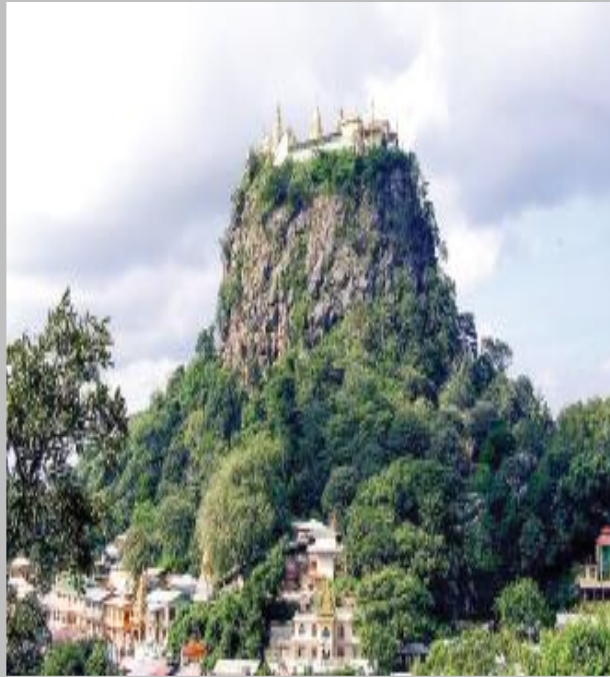
ミャンマーのポッパ山国立公園は国内のジオパークの中でも世界水準のジオパークに到達する可能性を秘めています。

ポッパ山国立公園が世界水準のジオパークの一つとして認定された場合、ミャンマーの水環境、大地、森林などの自然美や文化、古代遺産、人々の習慣などを世界に知らしめるだけでなく、ポッパ山の地質遺産、生物の多様性、地域の生産物や水、大地、森林などの自然の美しさを体系的に保存・保護することにも役立つと思われま。

ユネスコの世界ジオパーク プログラムは 2001 年より実施され、現在 46 か国 177 か所がジオパークに認定されています。中国には 39 のジオパークがあり、世界で最も多くのジオパークを持つ国の一つとして知られています。

東南アジアである、タイ、インドネシア、ベトナムとマレーシアには世界水準のジオパークがあることが知られています。





#### 44. ヤンゴン地方域で初等教育の生徒 100 万人以上が登校し勉学中

2024 年 6 月 3 日より、2024-2025 教育年度における初等教育の授業が始まり、初等教育学校 2753 校で 100 万 7695 名の生徒が穏やかに授業を受けています。

学校登録週間である 5 月 23 日から 6 月 2 日までに、ヤンゴン地方域にある小学校 1680 校、中学校 665 校、高等学校 409 校、合計 2754 校の学校の授業が開始されました。

ヤンゴン地方域のドクター・チョー・チョー・ミャツ・アウン教育局長は 6 月 3 日に学校を始業させるために国家元首の指示に従って、地方域政府の支援を得て学校とその周辺の清掃活動や、教室、机、椅子などを清潔に保ち、整えるよう互いに協力し合ったこと、またボウタタウン県のドクター・キン・トゥーザー・セイン教育局長も、教育費無償化政策制度であるため、生徒らからどのような金銭も徴収しないよう学校に指示したこと、中退率を下げるために尽力していること、学校登録週間には生徒らにも支援物資が提供されたこと、さまざまな理由で学業を中断しなければならなかった生徒らが学校に通えるように取り組むよう指示していること、昨年と比べて入学者が増加していることなどがわかりました。



2024-2025 教育年度 A Hta Ka (6) ボウタタウンの生徒たちの通学の様子

#### 45. 2024-2025 教育年度において 600 万人以上の生徒が初等教育の学校で勉学中

(2024 年 5 月 6 日、東京)

2024-2025 教育年度において、初等教育の学校ならびに寺子屋が 6 月 3 日に始業し、全国で生徒たちが穏やかに楽しく出席しています。教育省は、関係機関と協力し、学校が順調に始業できるよう取り組みました。幼稚園と小学校の生徒に制服が支給され、中学校と高等学校の生徒には文房具や教科書が無料で支給されました。さらに、教室の準備や交通の整備、またそれぞれの学校の清潔さと美しさを保つための取り組みも行われています。さまざまな理由で学校に通えない生徒らについても、通えるように受け入れています。現時点での報告によると、合計 667 万 2329 名の生徒が在籍しており、641 万 4799 名の生徒が授業に出席しています。



全国で見習い僧侶・見習い尼僧を含む生徒 641 万 4799 名が授業に出席



寺子屋で見習い僧侶・見習い尼僧を含む生徒ら穏やかに楽しく授業に出席